

真の光を見て生きる

ヨハネの黙示録二一章9〜27節

全能者である神、主と小羊とが神殿だからである。この都には、それを照らす太陽も月も、必要でない。神の栄光が都を照らし、小羊が都の明かりだからである。(22、23)

天の都には壮麗な神殿は必要なくなりました。聖なる神殿そのものである神と小羊キリストがそこにおられるからです。また、そこには都を照らす太陽や月がありませんでした。神ご自身が光そのものであり、神の栄光が都を明るく照らしていたからです。ローマ帝国の偽りの光が世を照らしていたとき、ヨハネは真の光を見せていただきました。この真の光を見た者たちは、この世に輝く光がどれも見せかけの光、偽りの光であることを見抜きます。ヨハネは闇の世において苦しむ教会に対して、天にある希望の光、真の光を先取りして生きるようにと勧めます。私たちは、この闇の世界にも命の光がすでに差し込んでいることを信じて生きるのです。この年もまもなく終わろうとしています。私たちは常に天の真の光を信仰によって見せていただきながら、歩みを続けたいと願います。